

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

表9-2 測線-E

単 位：個体数/m<sup>2</sup>

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	イワフジツボ	3,909.1	79.5	221.7	10,545.5
	コウダカチャイロタマキビガイ	401.1	8.2	0	922.5
	イガイ	356.8	7.3	0	101.8
	ムラサキインコガイ	149.2	3.0	0	243.5
	クロタマキビガイ	38.4	0.8	0	273.4
合 計		4,915.8		233.5	11,060.1
出現種類数		42		23	46

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

表9-3 測線-F

単 位：個体数/m<sup>2</sup>

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	タマキビガイ	180.8	63.3	4.0	842.8
	ヤマザンショウガイ	29.5	10.3	0	109.0
	エゾチグサガイ	12.0	4.2	0	47.5
	ヘソアキクボガイ	11.3	4.0	0	7.3
	コウダカチャイロタマキビガイ	8.3	2.9	0	735.0
合 計		285.7		61.2	4,967.0
出現種類数		30		12	33

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

表9-4 測線-I

単 位：個体数/m<sup>2</sup>

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	コウダカチャイロタマキビガイ	881.4	63.5	0	2,057.2
	イワフジツボ	428.6	30.9	49.4	4,369.2
	アオモリムシロガイ	18.3	1.3	0	26.4
	タマキビガイ	13.9	1.0	0	92.1
	クロタマキビガイ	6.1	0.4	0	38.3
合 計		1,389.1		106.6	4,564.5
出現種類数		45		17	47

(注) 平成19年度第1四半期より、過去データの解析結果を受けてE・I測線における調査点を変更した。

なお、各測線及び補助測線の測定結果をもとに、参考として作成した潮間帯生物の面的な出現状況は、図5のとおりである（資料2-6）。

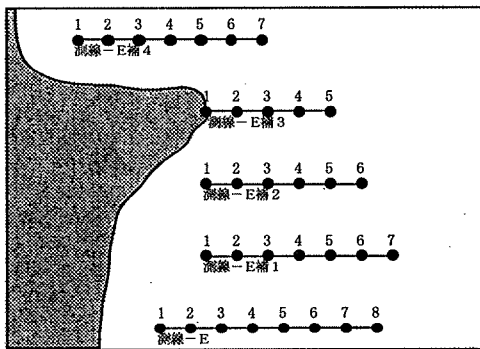
図5 潮間帯生物の面的な出現状況（群集解析結果）

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

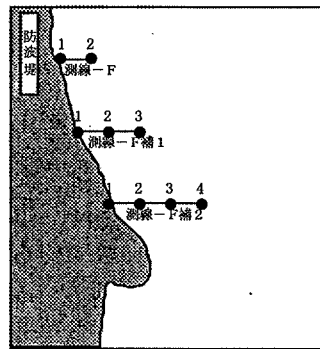
年度 季	測 線	E 測線							測 線	F 測線				測 線	I 測線							
		枠番号/群集番号								枠番号/群集番号					枠番号/群集番号							
平成 30年 度 春 季	補4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	F	①	②	③	④	補2	①	②	③	④	⑤	⑥		
		1	1	1	1	1	1	4			2	4					2	2	2	1	12	4
	補3					①	②	③		④	⑤	⑥	⑦			①	②	③	④	⑤	⑥	
						2	3	4		4	4	12				1	12	4				
	補2					①	②	③		④	⑤	⑥	⑦			①	②	③	④			
					1	1	4	4	4	4	4		2	12	12	4						
	補1					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦										
						7	1	1	4	12	13	4										
	E				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧										
					1	1	1	1	1	1	4	9										

(注) : 0 は出現がなかったことを示す。

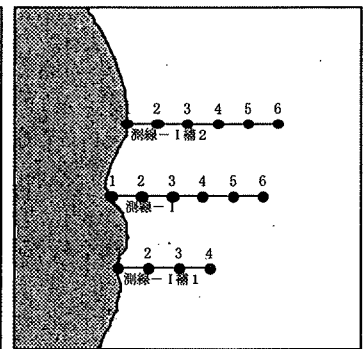
調査位置図 測線-E



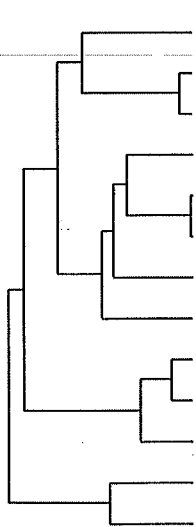
調査位置図 測線-F



調査位置図 測線-I



類似度 (Whittakerの百分率類似度)  
0 0.1 0.2



群集番号	シンボル	群集名
1		コウダカチャイロタマキビガイーミドリチグサガイ
2		タマキビガイーコウダカチャイロタマキビガイ
3		クロタマキビガイータマキビガイ
4		ヤマザンショウガイーコガモガイ
5		アオモリムシロガイーコウダカチャイロタマキビガイ
6		ホンヤドカリーヘソアキクボガイ
7		コウダカマツムシガイーアオモリムシロガイ
8		キタノムラサキガイーエゾサンショウガイ
9		イガイーイワフジツボ
10		チシマフジツボーイガイ
11		ババガセイガイ
12		イワフジツボームラサキインコガイ
13		ムラサキインコガイーイワフジツボ

(注) 平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から面的な出現状況の把握のため、補助的な調査を開始した。平成13年度から解析方法を一部変更した。

群集解析とは、生物種群の組成から客観的（統計的）に類似しているもの（群集）を分類して、いくつかのグループに分け、それぞれの地点の群集構造の変遷をとおして面的な出現状況及び環境の状況を把握する方法である。

## イ 底 生 生 物

### (7) マクロベントス

#### i) GH-1.5地点以外

調査結果（GH-1.5地点を除く）の概要は表10-1のとおりである（資料2-7）。

平均個体数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、マルソコエビ科の1種 *Urothoe* sp.、ヒサシソコエビ科 Phoxocephalidae、キョウスチロリ *Goniada maculata* など54種の出現がみられた。過去の同一四半期の調査で出現がみられなかったイタスピオ *Aopronospio dayi japonica* が今四半期新たに出現し、過去の同一四半期に出現したキララガイ *Acila insignis*、クビナガスガメ *Ampelisca brevicornis*、センベイサンパツソコエビ *Synchelidium americanum latipalpum* など155種は出現しなかった。

調査年月日：平成30年5月9日

単 位：個体数；個体数/m<sup>2</sup>

湿重量；g/m<sup>2</sup>

表10-1 概要表

種 類 名	平均 個体数	%	平均 湿重量	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )		
				平均個体数	平均湿重量	
優 占 種	マルソコエビ科の1種 ( <i>Urothoe</i> sp.)	151.3	42.9	0.17	0 ~ 526.3	0 ~ 0.45
	ヒサシソコエビ科 (Phoxocephalidae)	33.8	9.6	0.09	0 ~ 23.8	0 ~ 0.08
	キョウスチロリ ( <i>Goniada maculata</i> )	23.3	6.6	0.20	2.9 ~ 32.9	0.01 ~ 0.16
	サクラガイ ( <i>Nitidotellina nitidula</i> )	17.1	4.9	1.12	0.4 ~ 20.0	+ ~ 1.18
	ヒサシソコエビ科の1種 ( <i>Paraphoxus</i> sp.)	12.5	3.5	0.16	0 ~ 10.4	0 ~ 0.08
合 計	352.5		15.04	168.8 ~ 750.9	2.83 ~ 277.41	
出現種類数		54		43 ~ 84		
新 規 出 現 種	イタスピオ ( <i>Aopronospio dayi japonica</i> )	0.8		+	0	0
出 現 せ ず	キララガイ ( <i>Acila insignis</i> )		0		0 ~ 32.1	0 ~ 2.98
	クビナガスガメ ( <i>Ampelisca brevicornis</i> )		0		0 ~ 5.8	0 ~ 0.21
	センベイサンパツソコエビ ( <i>Synchelidium americanum latipalpum</i> )		0		0 ~ 12.9	0 ~ 0.01

(注) + : 0.01 g/m<sup>2</sup>未満を示す。

平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から調査地点を一部変更した。

ii) GH-1.5地点

GH-1.5地点の調査結果の概要は表10-2のとおりである(資料2-7)。

個体数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、ギボシイソメ科の1種 *Lumbrineris longifolia*、ケヤリ科の1種 *Euchone* sp.、タケフシゴカイ科 *Maldanidae*など29種の出現がみられた。過去の同一四半期の調査で出現がみられなかったミズヒキゴカイ *Cirriformia tentaculata*、ハイイロハスノハカシパン *Scaphechinus griseus*が今四半期新たに出現し、過去の同一四半期に出現したキララガイ *Acila insignis*、ミズヒキゴカイ科の1種 *Chaetozone* sp.、ヒメエラゴカイ科の1種 *Aricidea* sp.など139種は出現しなかった。

調査年月日：平成30年5月9日

単 位：個体数；個体数/m<sup>2</sup>

湿重量；g/m<sup>2</sup>

表10-2 GH-1.5地点

種 類 名	個体数	%	湿重量	過去同一四半期の範囲 (S61.9 ~ H30.3)		
				個体数	湿重量	
優 占 種	ギボシイソメ科の1種 ( <i>Lumbrineris longifolia</i> )	410.0	34.2	4.35	0 ~ 1,790.0	0 ~ 15.65
	ケヤリ科の1種 ( <i>Euchone</i> sp.)	230.0	19.2	0.75	0 ~ 5,490.0	0 ~ 24.75
	タケフシゴカイ科 ( <i>Maldanidae</i> )	175.0	14.6	4.30	0 ~ 875.0	0 ~ 10.05
	シロガネゴカイ科の1種 ( <i>Nephtys</i> sp.)	85.0	7.1	0.50	5.0 ~ 240.0	0.01 ~ 2.30
	シズクガイ ( <i>Theora fragilis</i> )	60.0	5.0	1.05	0 ~ 975.0	0 ~ 11.50
合 計	1,200.0		50.35	255.0 ~ 10,615.0	9.54 ~ 981.20	
出現種類数		29		15 ~ 52		
新規 出現 種	ミズヒキゴカイ ( <i>Cirriformia tentaculata</i> )	5.0		0.35	0	0
	ハイイロハスノハカシパン ( <i>Scaphechinus griseus</i> )	5.0		0.15	0	0
出 現 せ ず	キララガイ ( <i>Acila insignis</i> )		0		0 ~ 295.0	0 ~ 161.05
	ミズヒキゴカイ科の1種 ( <i>Chaetozone</i> sp.)		0		0 ~ 750.0	0 ~ 3.04
	ヒメエラゴカイ科の1種 ( <i>Aricidea</i> sp.)		0		0 ~ 155.0	0 ~ 0.15

(注) 平成19年度第1四半期より、泊発電所専用港内の調査地点(GH-1.5)の調査結果は、その他の地点の調査結果と分けて評価を行うこととなったため、GH-1.5地点だけの表を追加した。

(イ) メガロベントス

目視観察結果の概要は表11-1のとおりである（資料2-8）。

平均個体数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、測線全体ではムラサキインコガイ、タマキビガイ、ヘソアキクボガイなど48種の出現がみられた。過去の同一四半期に出現したチヂミボラ、キタノムラサキイガイ、キヒトデなど29種は出現しなかった。

なお、調査測線毎の集計結果は表11-2～4のとおりである。

調査年月日：平成30年5月9、10、14、15、16、17、18日

表11-1 概要表

単 位：個体数/10m<sup>2</sup>

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( H 9.4 ~ H30.3 )
優 占 種	ムラサキインコガイ	306.7	56.4	183.9 ~ 1,803.1
	タマキビガイ	48.4	8.9	21.4 ~ 612.6
	ヘソアキクボガイ	38.0	7.0	0.8 ~ 67.2
	コシダカガンガラ	37.1	6.8	6.1 ~ 43.0
	キタムラサキウニ	22.7	4.2	13.0 ~ 31.7
合 計		543.9		492.9 ~ 2,064.8
出現種類数		48		41 ~ 55
新規出現種				
出現せず	チヂミボラ	0		0 ~ 26.5
	キタノムラサキイガイ	0		0 ~ 115.5
	キヒトデ	0		0 ~ 0.9

(注) 平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から調査地点を一部変更した。

調査年月日：平成30年5月9、10、14、15、16、17、18日

表11-2 測線-E

単 位：個体数/10m<sup>2</sup>

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( H 9.4 ~ H30.3 )	
優 占 種	ムラサキインコガイ	911.2	84.8	526.0	~ 5,184.0
	コベルトフネガイ	39.0	3.6	0	~ 33.2
	コシダカガンガラ	23.4	2.2	3.4	~ 54.6
	イガイ	22.6	2.1	2.6	~ 19.2
	キタムラサキウニ	19.0	1.8	10.2	~ 35.6
合 計		1,075.0		701.2	~ 5,292.0
出現種類数		34		25	~ 44

(注) 平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から調査を開始した。

調査年月日：平成30年5月9、10、14、15、16、17、18日

表11-3 測線-F

単 位：個体数/10m<sup>2</sup>

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	タマキビガイ	99.8	29.7	9.0	~ 1,621.6
	ヘソアキクボガイ	82.6	24.6	0	~ 129.4
	コシダカガンガラ	46.6	13.9	1.2	~ 42.8
	キタムラサキウニ	21.6	6.4	9.0	~ 32.8
	イトマキヒトデ	19.2	5.7	5.2	~ 40.2
合 計		335.6		58.6	~ 1,835.8
出現種類数		35		13	~ 42

調査年月日：平成30年5月9、10、14、15、16、17、18日

表11-4 測線-I

単 位：個体数/10m<sup>2</sup>

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( H 9.4 ~ H30.3 )	
優 占 種	タマキビガイ	45.4	20.5	0	~ 608.2
	コシダカガンガラ	41.4	18.7	5.0	~ 50.8
	ヘソアキクボガイ	27.8	12.6	0	~ 48.4
	キタムラサキウニ	27.6	12.5	9.4	~ 60.8
	イトマキヒトデ	19.2	8.7	1.0	~ 14.8
合 計		221.2		127.8	~ 1,051.8
出現種類数		35		27	~ 44

(注) 平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から調査を開始した。

ウ 海 藻

目視観察結果の概要は表12-1のとおりである（資料2-9）。

出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、測線全体では無節サンゴモ類、イソガワラ、フクロノリなど55種の出現がみられた。過去の同一四半期に出現したウラソソ、キョウノヒモ、フシツナギなど47種は出現しなかった。

なお、調査測線毎の集計結果は表12-2～4のとおりである。

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

表12-1 概要表

単 位：被度；%

種 類 名	被 度 の 分 布 状 況												平均被度	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )				
	0	R	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100						
優 占 種	無節サンゴモ類	5	30	3	1					2	2	3	1		17	2	~	25
	イソガワラ	5	35	3	2		2								7	0	~	7
	フクロノリ	14	33												4	2	~	6
	カヤモノリ	27	20												2	1	~	3
	エゾヤハズ	29	18												2	1	~	4
出 現 種 類 数												55	48	~	64			
新規出現種																		
出 現 せ ず	ウラソソ														0	0	~	2
	キョウノヒモ														0	0	~	1
	フシツナギ														0	0	~	1

(注) 被度の分布状況欄の「R」は10%未満を示す。

平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から出現種類毎の被度の状況（平均被度）を集計した。

平成19年度第1四半期より、過去データの解析結果を受けてE・F・I測線における調査点を変更した。

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

表12-2 測線-E

単 位：被度；%

種 類 名		平 均 被 度	過 去 同 一 四 半 期 の 範 圍 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	無節サングモ類	8	1 ~	24
	イソガワラ	7	0 ~	6
	フクロノリ	4	- ~	11
	ピリヒバ	3	2 ~	7
	カヤモノリ	2	1 ~	3
出 現 種 類 数		45	36 ~	52

(注) - : 1%未満を示す。

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

表12-3 測線-F

単 位：被度；%

種 類 名		平 均 被 度	過 去 同 一 四 半 期 の 範 圍 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	無節サングモ類	27	4 ~	46
	イソガワラ	12	0 ~	13
	フクロノリ	3	- ~	5
	エゾヤハズ	3	1 ~	8
	イギス	3	0 ~	5
出 現 種 類 数		29	19 ~	41

(注) - : 1%未満を示す。

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

表12-4 測線-I

単 位：被度；%

種 類 名		平 均 被 度	過 去 同 一 四 半 期 の 範 圍 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	無節サングモ類	26	1 ~	28
	イソガワラ	5	0 ~	6
	フクロノリ	3	1 ~	4
	ウミトラノオ	3	1 ~	19
	フジマツモ	3	2 ~	26
出 現 種 類 数		40	32 ~	53

(注) 平成19年度第1四半期より、過去データの解析結果を受けてE・F・I測線における調査点を変更した。



なお、各測線及び補助測線の測定結果をもとに、参考として作成した海藻の面的な出現状況は、図6のとおりである（資料2-10）。

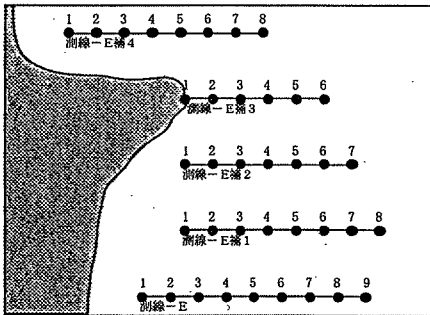
図6 海藻の面的な出現状況（群集解析結果）

調査年月日：平成30年5月8、9、10、14、15、16、17、18日

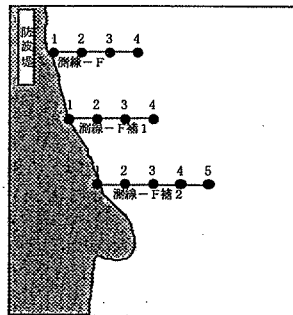
年度 季	測 線	E測線								測 線	F測線					測 線	I測線											
		枠番号/群集番号									枠番号/群集番号						枠番号/群集番号											
平成 30 年度 春季	補4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	F	①	②	③	④	補2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧					
	補3					①	②	③	④		⑤	⑥						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
	補2					①	②	③	④		⑤	⑥	⑦	⑧						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
	補1					①	②	③	④		⑤	⑥	⑦	⑧		⑨					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	E					①	②	③	④		⑤	⑥	⑦	⑧		⑨					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

(注) : 0 は出現がなかったことを示す。

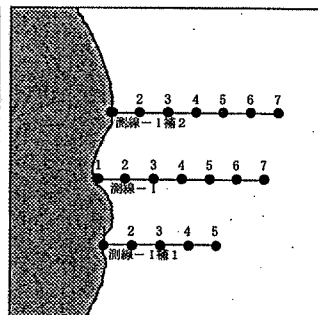
調査位置図 測線-E



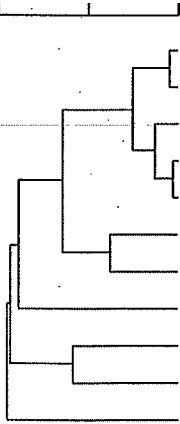
調査位置図 測線-F



調査位置図 測線-I



類似度 (Whittakerの百分率類似度)  
0 0.1 0.2



群集番号	シンボル	群集名
1		無節サンゴモ類-イソガワラー-ミヤベモク
2		無節サンゴモ類-イソガワラー-フクロノリ
3		フクロノリ-無節サンゴモ類
4		ウミノウメ-シオグサ属の1種
5		シオグサ属の1種-ボウアオノリ
6		フクロノリ-エゾヒトエグサ
7		ウスバアオノリ
8		アミジグサ-ボウアオノリ
9		ウップルイノリ-ランソウモドキ
10		インダントウ
11		キブリイトグサ

(注) 平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から面的な出現状況の把握のため、補助的な調査を開始した。平成13年度から解析方法を一部変更した。

群集解析とは、生物種群の組成から客観的（統計的）に類似しているもの（群集）を分類して、いくつかのグループに分け、それぞれの地点の群集構造の変遷をとおして面的な出現状況及び環境の状況を把握する方法である。

## エ 魚等の遊泳動物

調査結果の概要は表13のとおりである(資料2-11)。

平均個体数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、ソウハチ、エゾメバル、カナガシラなど29種の出現がみられた。過去の同一四半期に出現したヒレグロ、トクビレ、アサバガレイなど37種は出現しなかった。

表13 概要表

調査年月日：平成30年5月7、16日、6月1日

種類名		平均 個体数	%	平均 重量(g)	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
					平均個体数	平均重量(g)
優 占 種	ソウハチ	15.7	14.7	2,005.0	1.8 ~ 80.7	278.5 ~ 10,449.5
	エゾメバル	10.8	10.1	1,501.5	0 ~ 16.2	0 ~ 2,749.2
	カナガシラ	10.0	9.4	1,501.0	0 ~ 76.5	0 ~ 10,446.0
	ヒラメ	9.7	9.1	8,251.5	1.8 ~ 17.3	771.8 ~ 10,201.2
	スナガレイ	9.5	8.9	1,383.8	1.3 ~ 82.0	93.5 ~ 7,305.3
合計		106.8		91,346.3	80.1 ~ 3,233.3	24,204.7 ~ 474,398.5
出現種類数		29		19 ~ 35		
新規 出現 種						
出 現 せ ず	ヒレグロ		0		0 ~ 20.5	0 ~ 2,613.5
	トクビレ		0		0 ~ 10.7	0 ~ 1,116.3
	アサバガレイ		0		0 ~ 27.2	0 ~ 3,564.0

オ 卵 ・ 稚 仔

(7) 卵

MTDネットによる採集結果の概要は表14のとおりである（資料2-12）。

平均個体数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、カレイ科1、スケトウダラ、アカガレイなど5種の出現がみられた。過去の同一四半期に出現したカレイ科2、無脂球形卵1、単脂球形卵13など5種は出現しなかった。

調査年月日：平成30年5月9日

単 位：個体数/100m<sup>3</sup>

表14 概要表

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	カレイ科 1	170	84.2	23 ~	389
	スケトウダラ	27	13.3	0 ~	34
	アカガレイ	4	1.9	0 ~	7
	カレイ科 3	1	0.5	0 ~	10
	単脂球形卵 10	+	-	0 ~	1
合 計		202		28 ~	402
出 現 種 類 数		5		2 ~	6
新 規 出 現 種					
出 現 せ ず	カレイ科 2	0		0 ~	32
	無脂球形卵 1	0		0 ~	3
	単脂球形卵 13	0		0 ~	1

(注) +：1個体/100m<sup>3</sup>未満を示す。

-：0.1%未満を示す。

平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から調査地点を一部変更した。

また、平成18年8月の基本計画の改正に伴い、平成18年度第3四半期から調査地点を追加した。

## (イ) 稚仔

MTDネットによる採集結果の概要は表15のとおりである(資料2-13)。

平均個体数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、イカナゴ、メバル属、マガレイなど12種の出現がみられた。過去の同一四半期に出現したセトカジカ、ニジカジカ、カレイ科など20種は出現しなかった。

調査年月日：平成30年5月9日

単 位：個体数/100m<sup>3</sup>

表15 概要表

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	イカナゴ	13	51.4	0 ~	20
	メバル属	10	37.8	0 ~	9
	マガレイ	2	6.5	0 ~	5
	アカガレイ	+	1.3	0 ~	+
	マコガレイ	+	1.0	0 ~	3
合 計		25		+ ~	30
出 現 種 類 数		12		1 ~	15
新 規 出 現 種					
出 現 せ ず	セトカジカ	0		0 ~	+
	ニジカジカ	0		0 ~	3
	カレイ科	0		0 ~	1

(注) + : 1個体/100m<sup>3</sup>未満を示す。

平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から調査地点を一部変更した。

また、平成18年8月の基本計画の改正に伴い、平成18年度第3四半期から調査地点を追加した。

カ 動・植物プランクトン

(7) 動物プランクトン

ネット法による採集結果の概要は表16のとおりである（資料2-14）。

平均個体数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、甲殻綱 Nauplius of COPEPODA、Copepodite of *Oithona*、Copepodite of *Pseudocalanus*など51種の出現がみられた。過去の同一四半期に出現した甲殻綱 Nauplius of Balanomorpha、根足虫綱 *Globigerina* sp.、ヒトデ綱 *Bipinnaria* of ASTEROIDEAなど110種は出現しなかった。

調査年月日：平成30年5月9日

単 位：個体数/m<sup>3</sup>

表16 概要表

種 類 名		平均個体数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	甲殻綱 Nauplius of COPEPODA	18,702.3	51.1	2,653.6 ~	27,701.5
	Copepodite of <i>Oithona</i>	7,176.8	19.6	779.0 ~	7,723.9
	C. of <i>Pseudocalanus</i>	3,002.5	8.2	0 ~	9,508.6
	絨毛虫綱 <i>Parafavella gigantea</i>	2,179.3	5.9	0 ~	11,505.4
	甲殻綱 <i>Oithona similis</i>	1,466.0	4.0	152.9 ~	2,698.4
合 計		36,632.2		4,881.1 ~	45,426.0
沈 殿 量 (cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> )		6.6		3.9 ~	48.9
出 現 種 類 数		51		36 ~	68
新 規 出 現 種					
出 現 せ ず	甲殻綱 Nauplius of Balanomorpha	0		0 ~	85.9
	根足虫綱 <i>Globigerina</i> sp.	0		0 ~	747.5
	ヒトデ綱 <i>Bipinnaria</i> of ASTEROIDEA	0		0 ~	47.7

(注) sp. は種まで同定できなかったものが1種類出現したことを示す。

平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度からネット法による採集のみとした。

また、この他に平成9年度から沈殿量の集計を開始した。

さらに、平成18年8月の基本計画の改正に伴い、平成18年度第3四半期から調査地点を追加した。

(イ) 植物プランクトン

採水法による採集結果の概要は表17のとおりである（資料2-15）。

平均細胞数の合計及び出現種類数は過去の同一四半期の範囲内であり、珪藻綱 *Bacteriastrum furcatum*、*Chaetoceros sociale*、*Chaetoceros* spp.など79種の出現がみられた。過去の同一四半期の調査で出現がみられなかった渦鞭毛藻綱 *Diplopsalis* sp.、珪藻綱 *Odontella longicruris*が今四半期新たに出現し、過去の同一四半期に出現した珪藻綱 *Chaetoceros didymum*、黄金色藻綱 *Distephanus speculum*、珪藻綱 *Chaetoceros radicans*など145種は出現しなかった。

調査年月日：平成30年5月9日

単 位：細胞数/L

表17 概要表

種 類 名		平均細胞数	%	過去同一四半期の範囲 ( S61.9 ~ H30.3 )	
優 占 種	珪藻綱 <i>Bacteriastrum furcatum</i>	8,656	52.4	0 ~	346,548
	<i>Chaetoceros sociale</i>	2,327	14.1	44 ~	1,368,591
	C. spp.	1,324	8.0	0 ~	6,978
	Thalassiosiraceae	820	5.0	0 ~	6,932
	<i>Thalassiosira</i> spp.	457	2.8	0 ~	6,474
合 計		16,507		14,304 ~	1,542,580
クロロフィル a (μg/L)		0.8		0.4 ~	1.4
沈 殿 量 (cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> )		30.4		38.8 ~	1,150.3
出 現 種 類 数		79		44 ~	87
新 規 出 現 種	渦鞭毛藻綱 <i>Diplopsalis</i> sp.	16		0	
	珪藻綱 <i>Odontella longicruris</i>	2		0	
出 現 せ ず	珪藻綱 <i>Chaetoceros didymum</i>	0		0 ~	1,899
	黄金色藻綱 <i>Distephanus speculum</i>	0		0 ~	662
	珪藻綱 <i>Chaetoceros radicans</i>	0		0 ~	324,037

(注) sp. は種まで同定できなかったものが1種類出現したことを示す。

spp. は種まで同定できなかったものが複数種類出現したことを示す。

平成8年7月の基本計画の一部改正に伴い、平成9年度から採水法による採集のみとした。

また、この他に平成9年度からクロロフィル a (参考値) の調査及び沈殿量の集計を開始した。

さらに、平成18年8月の基本計画の改正に伴い、平成18年度第3四半期から調査地点を追加した。